

令和元年度 第2回 外部評価委員会 議事録

1 日 時 令和2年2月10日（月）13:30～15:10

2 場 所 宮崎県立農業大学校 会議室

3 出席者 [外部評価委員] 10名

三田井 研一 宮崎県農業協同組合中央会 専務理事 ※委員長
香川 憲一 宮崎県農業法人経営者協会 会長
黒木 覚市 宮崎県立農業大学校同窓会 会長
黒木 美佐子 株式会社黒木本店 取締役経理部長
坂本 康子 農業生産直売所のどかグループ代表 食育ティーチャー
杉松 泰子 料理研究家 食育ティーチャー
松原 照美 宮崎県地域営農組織協議会 集落営農法人部会 部会長
萩原 浩二 宮崎県立高鍋農業高等学校 校長
横山 英二 高鍋町農業政策課 課長
馬場 勝 宮崎県農業経営支援課 課長補佐 ※代理出席

[事務局] 9名

山本 泰嗣 校長
山下 勉 副校長（教育担当）
森 幸文 総務課 主幹
田中 俊彦 農学科長 教授
垂水 啓二郎 畜産学科長 教授
松葉 久美 農学科（フードビジネス専攻）教授
平川 孝一 教務学生課 准教授
邊見 博子 教務学生課 准教授
垣内 圭介 教務学生課 技師

4 会次第

(1) 開会行事

①校長あいさつ ②説明（会の進行について）

(2) 協議

①本年度の活動の成果について（教務学生課、農学科、畜産学科、フードビジネス専攻）
②質疑応答及び意見交換 ③外部評価（学校関係者評価）

(3) 閉会行事

①次年度の委員について ②校長謝辞

5 あいさつ及び発言等の記録

5-1 開会行事

(1) 校長あいさつ

本日は、年度末のお忙しい中御出席いただき、ありがとうございます。おかげさまで先週金曜日に2年生全員、本校の学修を終了しまして、卒業式までは自宅研修期間となっております。2年生の進路につきましては、65名の2年生の中で5名ほど進路が決まっていないということで、引き続き学生と連絡を取りながら指導を続けているという状況になります。

また、令和2年度の新入生は定数65名に対しまして70名の受験者がありました。このうち63名を合格としておりますが、63名のうち1名は別の大学へ進学ということで辞退が来ております。あと4名保留という報告を受けております。現在の1年生は農学科の方が10名定数割れという状態でしたけども、来年は畜産が定数より9名少ないという状態にありまして、3月に畜産学科の2次募集を行うことにしております。

農業だけではなく時代が変わりつつあるなかで、本校も含めまして全国の農業大学校が新しい姿へ向かって取り組んでおります。どの大学も頑張っていますが、長い歴史をもつ学校の改革はどこも一朝一夕に進んでいないのが現実です。そのような中で本校は、GAPなり学生出資会社、高大連携など、他の農大校が四苦八苦している案件を次々に形に出来ているということになっております。これは、学生がその大切さに共感してくれて、先生方とともに汗をかいてくれたからこそ実現できたものと考えております。充分ではない学校施設のなかでよく頑張ってくれているというふうに考えております。

また、今年1年を振り返ってみますと、本校での学習の質を変えることが出来たのではないかと考えております。これまでは一所懸命勉強する学生も、なんとなくという学生も同じように扱い卒業させてきました。今年度からは、単位なり修業時間が足りなければ進級、卒業ができないという、学校の規則本来の姿での運営に戻しております。学生にはその都度、保護者にも節目毎に成績を届ける仕組みや注意喚起のメールを送ることで、学生の意識改革を促して参りましたが、現状1年生のなかで数名ほど進級できても卒業できるかどうか微妙な学生というのが出てきております。普通の大学では当たり前のことなので、学校側としましてもしっかり説明責任を果たせるよう指導を徹底していきたいと考えております。

その一方で、一部の学生に大変真面目にやっているが講義についてこれないという学生も出てきております。これは物事を論理的に考える力の差が出てきていると感じておりますので、今年の推薦入試と一般入試で合格した学生に関しましては、3月に行うオリエンテーションの際に再度数学の試験を行うということにしておりまして、高校においても、うちを受験した高校生たちの数学の特訓を行ってもらっています。その上で手当てが必要な学生につきましては、4月から本校において数学の課外授業を行うということにしております。

これからの本県の農業を支えていく学力と知識をもった人材を養成できますよう引き続き本校の教育施設の整備やカリキュラム等の見直しを進めていくとしておりますので、本日はよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

(2) 出席者紹介並びに会議の運営について〔副校長〕 ※省略

5-2 協議

○議長（委員長）あいさつ

昔の農業は作物を生産する、家畜を育てるという概念であったわけではありますが、最近の農業は、「農畜産物を流通させる」、「農畜産物を加工する」、そして「それらを消費者の口に届け、その反応を見る」、「関係する企業との関係性をつくっていく」ということで、食育も含めて農業の幅が大きく広がっていると思っております。そういった背景もあることから、農業大学校教育が幅広いものになってきたと考えます。

加えまして、ICTも含めまして知識の集積が大事でありますので、今後は知識を深く進化させていくということも必要だと思っております。この農業大学校は、幅広く深く、いろんな学生にいろんなものを伝えていくということが使命であると思っております。

今日は一年間の取組に対する評価ということでもありますので、よろしく評価いただきますようお願い申し上げます、席に座らせていただきます。

(1) 本年度の教育活動の成果について ※資料説明のため省略

ア 教務学生課

イ 農学科（フードビジネス専攻を除く）

ウ 畜産学科（フードビジネス専攻を除く）

エ フードビジネス専攻

(2) 質疑応答及び意見交換

[委員]

反則点の見える化とはどういうことか。

[校長]

寮ではルール違反に対する反則点を設定している。寮におけるルールとは、例えば土足禁止や帰寮の門限等のようなものである。

[教務学生課准教授]

反則点の累積10点で2週間の退寮処分、累積点15点で1ヵ月の退寮処分、20点で永久退寮処分となっている。しかし、学生は今何点減点されているか分からないことがあるので、「あなたは今何点減点されていますよ」と伝えることが見える化ということである。

[委員]

寮における反則点の規則は前からあるのか。

[校長]

以前からルールはあり、去年は何名かの学生に適用している。その際、永久退寮になった学生はアパートを借りるか、ホテルから通うことになってしまうので、なかなか大変だということもあった。そこで今年は、農業総合研修センターで1日1,070円（シーツクリーニング代、食

費別)を徴収しながら通わせた。永久退寮という規則はあるが、夏休みをつぶして実習をすれば復寮を認めるという校長裁量により、甘いとも言われたが、寮に戻した学生もいる。

学校としては、生活指導と学業の指導は分けた方がいいのかなという気がしており、学業に出来るだけ影響のないような生活指導の運営をしていきたい。これまでは、「今、反則点の累積が何点ですよ」ということを知らせずに、いきなり退寮という処分をしてきたので、「反則点の累積が何点ですよ、持ち点はあと何点ですよ」と分かるようにした。

[委員]

GAPと老朽化対策の関係がよくわからない。

[校長]

この施設は平成6年に整備したため、生産施設はかなり老朽化しているし、この建物(本館)自体、雨漏りもする。今までこまめに整備を積み重ねてくればよかったが、その踏ん切りがつかなかったようで、かなりの施設で学生自体の実習が危ないなというところも出てきている。施設整備を計画的にやろうということで、今年度から少しずつやっている。来年度についても、少し大きい予算をつけていただくということで要望を出している。ちゃんとした施設がないと、畜産はなかなかGAP認証がとれない。というのは、畜舎がGAPに対応できないという実態があるので、その辺の整備も含めてやっていくということでこのような表現になっている。

[委員]

今、国会でも「高校、大学校等、最先端の技術で学ぶべきところが一番遅れている。何十年も前の機械を使って勉強し卒業して大丈夫なのか?」ということが議論されているので、ぜひ進んでいけばいいかなと思っている。

[委員]

今、農業機械の大型化はもちろんであるが、無人化する等スマート農業という方向でも動いている。スマート農業の必要性というのは目に見えているが、どうしたら現場で使いこなせるかという教育が大事である。一人一人が使えるようになるためには、農業機械を使う環境をどう整備していくかが重要。現在、農大は、外部講師を招へいた研修という方法をとっているが、卒業後の学生達がスマート農業を体に身につけて実際に現場で活かしていくためには、現場における事例を見て、「現場でどのように使って効果を出しているのか」を学ぶという、現場での講習の方が早く身につけて社会に出たときに早く生かせるのではないか。

[校長]

まさにおっしゃるとおりで、本校の一番東側の圃場10haを半分にかけて、JAフーズ宮崎とアグリパートナー宮崎という農業法人に貸している。どちらも大型農機を使った露地野菜生産をされているので、学生は大型機械を見ながら、体験しながらという形で一緒に作業が出来るという体制がある。また、JAフーズ宮崎はスマート農業実装事業に採択され、ロボットトラクターなどを入れているので、本校の圃場でそういう技術に学生が実際触れるといった環境はできている。

今年度、無人田植機による田植えの実演を見せた。その横には、学生が自分たちで田植機を使って田植えした田圃があったが、苗がふにゃふにゃに曲がって植えられていた。田植えの基本の技術を学ばせるとともに、スマート農機ってこんなに便利なんだということの両方を学ばせないといけない。

また、最近の学生は車に興味が無い。農業機械もあんまり関心が無い。車の免許もほとんどがオートマ限定免許を取得して入学してくる。そうすると、最初の大型機械の免許取得研修でマニュアル車の操作がわからない。そこで、今年の入学者からは高校でマニュアル車の免許を取ってから入学するようお願いしている。しかし、誕生日が3月の高校生は、免許を取得できないまま入学してくるので、適性がない学生は2年生でとるよう配慮している。

農業経営が難しい時代になる中、最初に普及するだろうなと思うのがドローンである。先ほど、ドローン免許教習の分校化という説明については、県内でドローンの免許試験をやられている方の分校になるということであり、資格試験を農業大学の施設をつかってやってもらうということである。昨年の夏に学生が1人受けていて、2月にもう1人学生がとることになっている。現在、25万円くらいかかる経費を3万円ぐらいでとれるような体制にしたいということで、そうなるために資格試験のできる職員をつくろうということになり、今年度3名の職員がドローン操縦士の免許を取得した。来年は、ドローン教習教官の資格をとってもらおう予定である。

[委員]

5名進路が決まっていないが、それらの学生の実家が農家なのか非農家なのか、また、今後の見通しを教えてほしい。

[校長]

農家出身の学生はいない。「先週末をもって本校での学修が終わりました」と言ったが、実際は就職が決まっていない5名のうち3名はまだ引き続き実習を行っている。要するに実習の時間が卒業要件に達していない。2月末には終わるというカリキュラムを組み、土日返上で実習をしている。自分がしたいことがなかなか見えてこない学生がいる。また、専攻が花ということで適当な就職先がない優秀な学生もいる。花や果樹の農業法人が少ないため、花や果樹の農業法人に就職をしたい学生は、鹿児島等の他県に就職している現実があり、県外就職というところで立ち止まっている学生もいる。しっかり今後も話をしながら就職を決めたい。

[委員]

平兵衛酢をやっているが、初めて平兵衛酢を作りたいという学生がでてきた。その学生は剪定の講習を受けるなどして真面目だ。他種を選んだ学生はこれまでもいたが、平兵衛酢を選んだ学生は初めてなので期待している。

[校長]

そういう受け皿をつくってあげないと、せっかく宮崎で鍛えても他県に行ってしまうと悲しい。

[委員]

ヒミ*オカジマさんの講演をきかせてもらった。就職先が見えて来ないと言っている学生がい

る中で、控え室まで押しかけて帰らないというぐらい積極的な学生がいる。世界的に活躍されている方から、今を見る、先を見るというようなことを教えてもらえた講演だった。学生にとっても、先生たちにとってもすごく良い講演だった。

[校長]

ヒミさんは食育でお世話になったこともあり、是非・・・と言ってお願いをした。学生があんなに感動するとは想定外だった。そこで、ヒミさん以外にも、神様授業という講義を充実させたいと思い、ドローンの神様といわれている請川さんや、あんこの神様といわれている講師もお呼びした。そういった講演に学生以外の一般の方々もオープンで呼ぶという形をとることは、農大の知名度の上がり方や学生に伝えるインパクトが違うなと思っているので、その辺を充実させていきたい。

[委員]

学生が入学して卒業するまでのどこかの時点で火がつく瞬間がある。出来るだけ早い内に火をつけるその探り方、手法が必要なのかなと思う。また、いろいろな研修や講演を実施していると思うが、JAグループの研修や講演では、昨年から参加者全員に5段階の評価をさせている。研修や講演の内容、期待度、理解度という項目で評価させている。評価が4未満の場合は無くしたり改善させたりしている。評価を実施することで、どの講義が期待されているのか、どの講義の理解度が深いのか分かる。農大でも取り入れたらどうか。

[校長]

カリキュラムの見直しは果敢に進めていかなければならない。

[委員]

農業簿記検定3級合格率18%という数字に驚いた。未来の宮崎県の農業者となる学生がこの数字というのは寂しい。

[校長]

受験者数は検定にエントリーをしている数であり、会場に行って受験した学生が少ないことも影響している。自信のある学生は受験して合格しているが、エントリーと試験を受けた数が合わない。どうも、学生の数学的などころの弱さが目につく。簿記検定については、そこを含めて変えないといけないと思っている。基本的には2級をとらせたいと思っている。ここは大きな課題であり、改善しなくてはいけないことだと思っている。

[委員]

農大校の敷地に入ってきたときに自転車の二人乗りをしている学生がおり、驚いた。一般の方が来校されたときの農大校の印象という点を考えると、規則を学生にしっかり守らせながらGAP推進等の教育につなげていくべきではないかと思う。そういったところが、学生募集や一般県民の印象につながることを日頃から指導をしていけば、志願者の数字が上がるのではないかと思う。

[校長]

生活指導からGAPではなく、GAPの指導から生活指導にフィードバックしたら良いのではないかと思う。学生が実習をする、授業を受けるといった中でルールを守り、それを寮や家に持って帰るといった仕組みを早く構築しないといけない。19歳・20歳の学生は、部屋を片付けないという歳でもないで、自分の家の生活に溶け込んでいる、いつも片づいているところで生活していくような仕組みを学校にも作っていかなければならない。GAPというひとつの基準をからだに染みこませるということをしっかりやりたい。そうすれば規則違反はなくなるのではないかと思う。

[委員]

今日の資料を見ると、前回の会議に比べて先生達の努力が粛々とわかった。前回、私たちの言ったことがそのまま実現されている。しかし、A評価で良いと思うところがB評価になっているところもある。

前回、「ママンマルシェにコンテナが置きっ放しになっている」と言わせてもらったが、次の日にはしっかりと片付いていて、さすが校長と思った。しかし、最近売れ残りの商品がずっと店に並んでいることがある。例えば、キャベツの表面がしなしなになっているものがそのまま残っていたりするの、その場合は係の人に2、3日したら割引シールを貼ってもらうよう伝えてもらえば、商品が売れるのではないか。マルシェの店員も農大から何も言ってこないため、商品の下げようがないと思う。その辺もよろしくお願いしたい。

[委員]

大型特殊免許はほとんどの学生が取得しているが、将来、現場で農業をするにはけん引を取得すべき。学生はできるだけ全員けん引をとってほしい。

また、ドローンもあるが無人ヘリの資格も取得してほしい。熊本農大はヘリをしている。宮崎農大でも検討をお願いしたい。特に集落営農、法人等で就職を考えている学生は取得してほしい資格である。

[校長]

無人ヘリはドローンと比べると技術が高いので、そういった研修を学生に紹介するような仕組みは考えていきたい。

けん引に関しては畜産学科と作物専攻の学生が受講しているが、施設園芸の学生が受けていないためこういう数字になっている。

[委員]

去年、私のところに研修に来た学生が危険物の資格を取得しようかどうか迷っていた。そこで給料が上がるよと伝えると受ける気になった。やはり学生はお金とか日々に係わるものに関してはすごく努力すると思うので、そういったことも付加価値をつけて指導してもらおうと資格取得を進んですると思う。

[校長]

J Aに就職する学生にはぜひ受けるよう指導をしている。合格率が低いため上げていきたい。

5-3 学校関係者（外部評価委員）評価

◇学生確保

- ・情報発信（内部評価）B→（外部評価）B
いろいろな取組を昨年から取り組んでいるが、実績という点でB
- ・募集活動（内部評価）B→（外部評価）B

◇教育の質の向上

- ・講義・実習〈教務学生課〉（内部評価）B→（外部評価）B
いろいろな取組が今から良い実績に結びつくと思うが、まだ途中段階のためB
- ・講義・実習〈農学科〉（内部評価）A→（外部評価）A
〈畜産学科〉（内部評価）B→（外部評価）B
〈フードビジネス専攻〉（内部評価）A→（外部評価）A
- ・研修〈インターンシップ：教務学生課〉（内部評価）A→（外部評価）A
満足度をふくめて良い結果が出ているためA
- ・研修〈インターンシップ：各学科〉（内部評価）A→（外部評価）A
- ・研修〈職員研修〉（内部評価）B→（外部評価）A
- ・プロジェクト学習：教務学生課（内部評価）A→（外部評価）A
高鍋農業との連携で良い成果がでているため
- ・プロジェクト学習：各学科（内部評価）A→（外部評価）A
- ・学生指導：教務学生課（内部評価）A→（外部評価）A
いろいろな課題はあるが一つ一つ丁寧に取り組んでいるためA
- ・学生指導：各学科共通（内部評価）B→（外部評価）A
ネガティブなことが一つも書いていないためB
- ・資格取得：教務学生課（内部評価）B→（外部評価）B
取組はいろいろあるが、取得、受験につながっていないためB

- ・資格取得：学科共通（内部評価）B→（外部評価）B
検定試験の合格者が少ないと思われるのでB
- ・進路指導：教務学生課（内部評価）B→（外部評価）A
補習とも行い、先生方の働き方改革を考えるとA
- ・進路指導：学科共通（内部評価）B→（外部評価）B

[委員]

学生のコミュニケーション力はどうか。

[校長]

スマホばかりいじっている学生は、コミュニケーションを取ることが難しい。ただし、最近の学生は素直である。昔は向かってくる学生が多かったが、今は引っ込み過ぎている感じがする。どこかで火をつけたい。また、もっとカリキュラムの見直しをしていきたい。

[委員]

来年の期待をこめてB

5-4 閉会行事

(1) 次年度の外部評価委員について ※省略

(2) 校長謝辞

今日はありがとうございました。おかげさまで身に余る評価をいただきました。

マルシェでは、契約栽培のようなことができはじめています。段々、マーケットでこれだけいるというものを生産までフィードバックしていくようなプロジェクトに育てていきたいと思えます。

また、資格取得を含めてまだまだきめ細かに学生をフォローしないといけない状況です。そこはそこでやりながら、施設整備をしながらやっていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。